

平成19年度那珂支部技術講習会について（報告）

那珂支部 秦 裕二郎

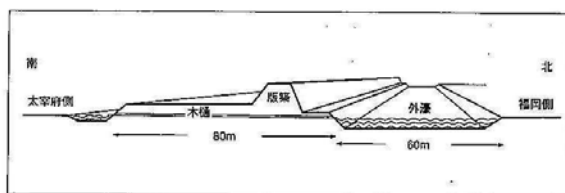
福建那珂支部では、19年11月28日に二名の講師を招いて、技術講習会を開催しました。支部会員25名の参加です。

まず一人目の講師として、太宰府市教育部文化財課の高橋学氏に「太宰府市の歴史と文化について」と題しまして、講演していただきました。

もうすっかり忘れてしまっている歴史年表や遺跡地図を見ながら、太宰府市の歴史と文化の話がありました。太宰府は日本が律令国家へと体制を整えるに従い、「遠の朝廷」としての役割を担っていきました。そのため、現在でも大宰府政庁跡をはじめ寺院、集落などの遺跡が広く存在します。

遺跡の中で有名な水城跡とは、福岡側に幅60m深さ4mの外濠をもった土塁で、外敵の侵入を防ぐ防御施設でした（下左図）。太宰府条坊跡は、市内各地に遺跡としてあり、東西2.6km、南北2.4kmと広範囲にわたっております。

また、ダザイフのダには「大」と「太」で使い分けをしており、律令政治機構の役所を指す場合は「大宰府」と大を使い、現在の行政名「太宰府市」や「太宰府天満宮」は太を使います。



■水城断面図



だざいふ せいちようおと
大宰府政庁跡

次に、埋蔵文化財地図を見ながら文化財保護の観点からお話いただきました。太宰府市の埋蔵文化財の取り扱いでは、3つの地区に分けています。ア地区は史跡指定地、イ地区は埋蔵文化財包蔵地、ウ地区は埋蔵文化財が無い地域です。

ア地区での建物の増改築、給排水工事、盛り土、地盤改良等の工事は、申請書提出が必要です。文化庁の審査の結果、発掘調査が行われることもあり、不許可になる場合もあります。イ地区は、工事等を行う前に審査が必要で、試掘調査が必要になることもあります。結果によって発掘調査等を行うことがあります。ウ地区は埋蔵文化財の取り扱いはありません。

以上、文化財の取り扱いには審査等の手続きがあり、また審査期間が長期におよぶ場合もあって、皆様のご理解、ご協力をお願いしますとのことでした。

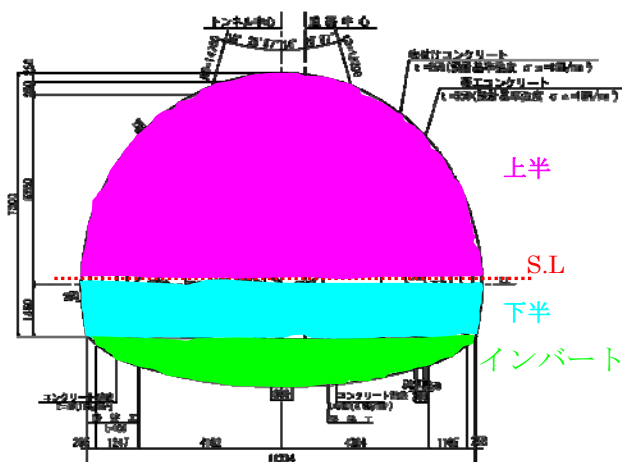
二人目の講師として、那珂土木道路課の山田光春氏に、鳥越トンネルの工事紹介をしていただきました。

鳥越トンネルの概要は、延長 $L=234\text{m}$ 、内空断面積 $A=58.3\text{m}^2$ 、NATM工法を採用で、平成 19 年 1 月に着工、平成 19 年 6 月に上半貫通で平成 20 年 3 月供用開始予定です。

NATM工法の特徴としては、地山とトンネルを一体化させ、地山自身の強度を有効に発揮させることです。

作業手順は、上半先進ベンチカット工法を採用しており、まず上半で①掘削ずり出し②鋼アーチ支保工建込③金網設置④コンクリート吹付け⑤ロックボルト打設の五つの作業で 1 m 進み、このサイクルを繰り返します。トンネル上半断面沈下が安定するのを計測で確認して、下半掘削に移ります。その順序は、上半と同様①掘削ずり出し②鋼性支保工設置③金網設置④コンクリート吹付け⑤ロックボルト打設で、このサイクルを繰り返します。そして、インバート部の配筋、コンクリート打設、防水シート張り、覆工コンクリート部の配筋、スライドセントルをセットし覆工コンクリート打設が主な工程の流れです。

トンネル現場が他の工事との違う体験談として、安全祈願祭、湧水処理、補助工法（AGF工法）、残土受け入れ地（夜間時も）の話もしていただき、とても興味深いものでした。



トンネル断面図 →



①上半掘削ずり出し



②鋼アーチ支保工建込



④コンクリート吹付け



⑤ロックボルト削孔・打設



インバート配筋・打設



防水シートとスライドセントル



覆工コンクリート打設



覆工コンクリート完了